



「生きる力を育むために」

栗東市立金勝第二保育園
園長 井上 明美

正月明け、保育園ではかるたやこままわし、凧揚げなどのお正月遊びを楽しんでいます。ある風の強い日、園庭に出た3歳児クラスの子どもたちはそのことに気づき、「今日は凧がよく上がるはず！」と、スーパーの袋に糸をつけた手作り凧を手に凧揚げを始めました。友だちを誘い、「競争しよう」と言って、一列に並ぶと、「キャー、あがった！」と楽しそうに遊ぶ声が聞かれました。「こっち向きにすると走らなくても揚がるで〜」とか「もっといっぱい走ってみよう」など試したり考えたりしながら遊んでいる姿が見られました。自然の中でのびのびと遊ぶ子どもたちは、様々なことを見つけ、気づき、自然を味方に思いっきり楽しんでいました。

このような姿がある一方、今の子どもたちの多くの姿は、言われたこと、指示されたことはできますが、自分で考えて何かをしようとする力が弱いように思われます。今、子どもたちに必要なこと・周りの大人たちに必要なことは何かを考えていきたいと思えます。

例えば、制作をするとき、「何を作ってもいいよ」と言うのをどのように作ったらよいかかわからず困っていたり、足りないものがあったとしても欲しいと言えず足りないままで作っていたりすることがあります。欲しいものがあったとしても我慢したり黙っていたりせず、声に出して言えるような子どもを育てるための保育を展開していくことが必要とされています。そのためにも、環境による保育が大切であり、子どもが興味をもち、自ら遊びや活動を始められるような遊具や用具、それらを置く環境(場所)を考える必要があります。

しかしながら、したい遊びがいつでもできるよう

に環境を整えておくことも大事ですが、整えすぎると今ある環境に満足してしまい、困る経験をしないまま幼児期を過ごすことになってしまいます。そうすると、困難に出会ったとき、乗り越える力が備わっていない、様々な環境に対応できない子が育ってしまうことになりかねません。そこで、園では様々な経験が意図的にできる場を作り、うまくできた喜びやうまくいかなかった苛立ちをたくさん経験して行ってほしいと願っています。その経験が考える力、伝え合う力、一緒にしたいと思う気持ちなど、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」へとつながっていくと思われれます。

結びに、私の保育の指標となった絵本を紹介します。

「北風と太陽」。ご存知のとおり、北風と太陽がそれぞれの個性を駆使して旅人のコートを脱がそうとするお話です。北風は強い風の力を利用して旅人に吹きかけます。しかし、冷たい風に負けないように旅人はコートをしっかりと体に巻き付け、脱ぐまいと力を入れます。一方、太陽は暖かい陽の光をいっぱい旅人に浴びせ、これでもかというほど照りつけます。旅人はあまりの暑さに負けてとうとうコートを自分から脱ぎます。子どもたちにこうなって欲しいという思いが強いと、ふと「させようとする保育」をしていることに気づくことがあります。人に言われるからではなく、自分から行動できるようになる、そのような保育を心掛けたいと思います。



第18回 栗東市教育研究発表大会

過日、第18回栗東市教育研究発表大会を「栗東市危機管理センター」で開催いたしましたところ、100名近くの教職員や教育関係者の皆様にご参加いただき、盛会裡のうちに終了することができました。ご参会及びご発表いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

また、栗東市教育会からは、教育研究奨励事業に協賛いただいておりますことを併せて厚くお礼申し上げます。

栗東市立教育研究所 所長 平子博之



教育講演会

演題 : 「子どもの育ちを見通した言語能力の育成」

講師 : 京都女子大学 発達教育学部

教授 水戸部修治 氏



新学習指導要領の趣旨を踏まえた言語活動の充実に向けて、「幼児期の読み聞かせのポイント」や「学習過程の工夫」「必然性のある交流」などについて、具体的な保育・授業の実践例を交えながらお話をいただきました。

活動の中で「先生、これ読んで!」とよく言ってくるが、この姿こそ大切にしていかななくてはならないことだと改めて思いました。子どもの主体性こそが子どもの力を引き出し、伸ばしていくことを考えると、保育の在り方をもう一度振り返らなくてはと思いました。

子どもにとって大切なものは何か?自ら主体的に働きかける力を育てる保育を考えていきたいと思いました。発表会の劇遊びの時に登場人物の気持ちを読み取って表現して遊んでいることも、小学校への授業に繋がっていくものなのだと感じました。

受講者の感想

VTRに出てくるような子どもたちの姿が、教師の細かな教材研究と工夫による積み上げによるものだと思うと、今の子どもたちにもしっかりとした目的をもって学習に取り組ませていくことが大切だと改めて感じました。

「付けたい力を見極める」や「マニュアルを与えるのではなく、目的を与える」という言葉が印象的でした。生徒の実態に即して指導方法を考えたり、ねらいに応じた交流形態を工夫したりするなど、意識すべきことを再確認できたように思いました。



教育研究奨励事業審査結果

〔フレッシュ研究部門〕

学校園名	種別	氏名	研究主題	賞
大宝幼稚園分園	個人	稲田 早紀	自ら意欲的に遊ぶ子どもをめざして ～心が動き・体が動く環境とは～	優秀賞
金勝小学校	個人	湊 優郁	主体的に「読み深める」学習指導の工夫 ～自分の思いをもち、深めていくことができる児童をめざして～	フレッシュ大賞 優秀賞
治田小学校	個人	八木 みなみ	出会いから学ぶ『自分探し』 ～かけがえのない「私」も「あなた」も大切にされる学級を目指して～	優秀賞
大宝小学校	個人	小松 里穂	「つくりだす喜び」を生み出す指導の在り方 ～図画工作科における交流活動を通して～	奨励賞
大宝西小学校	個人	丸尾 和香奈	課題解決のプロセスを大切に算数の授業づくり ～子どもがいきいきと学ぶすがたをめざして～	奨励賞
栗東中学校	個人	村上 将希	子どものソーシャルスキルの育成について ～第1学年の人権学習の実践を窓口～	奨励賞
葉山中学校	個人	岡田 藍沙	新学習指導要領の全面実施に向けた道徳教育の実践 ～学び合いを通して、人とのつながりや、自らの生き方を考え、 より高い道徳的価値に迫ろうとする態度を育てる～	奨励賞
栗東西中学校	個人	二瓶 明希	学級・授業のユニバーサルデザイン化 ～学級経営と美術科の指導におけるユニバーサルデザインについて～	奨励賞

〔ステップアップ研究部門〕

学校園名	種別	氏名	研究主題	賞
葉山東幼児園	共同研究	代表 谷 めぐみ	人として生きる力を身につけ、生き生きと遊ぶ子どもをめざして ～健康な体づくりを通して～	奨励賞
葉山小学校	個人	柴原 茜	「読み解く力」を軸にした授業のあり方 ～自分の思いや考えを表現できる子どもの育成をめざして～	優秀賞
葉山東小学校	個人	河内 めぐみ	鑑賞活動における対話的学習の効果に関する一考察	優秀賞
治田東小学校	個人	吉田 賢二	積極的に参加したいと思える授業づくり ～安心できる教室の雰囲気をめざして～	奨励賞
治田西小学校	個人	五藤 章	小学校における組織マネジメントの確立 ～生徒指導における学年主任の役割に焦点を当てて～	優秀賞
大宝小学校	個人	久泉 嘉章	いじめ防止を目的とした積極的な生徒指導の在り方 ～子どもと共に学級力を高める取り組みを基盤として～	最優秀賞
大宝小学校	個人	堀 佑樹	自信をもって学習できる環境づくりと学級づくり ～主体的に学び合い、理解を深める子どもを育てる～	奨励賞
大宝東小学校	個人	齊藤 雄士	学級力向上で創る学ぶ力の向上	優秀賞

教育研究奨励事業受賞者による研究報告

いじめ防止を目的とした積極的な生徒指導の在り方 ～子どもと共に学級力を高める取り組みを基盤として～ 大宝小学校 教諭 久泉 嘉章

いじめ認知報告や学級力アンケート等の分析をもとに、いじめ予防のための取り組みや職員研修など、年間を通して実践を重ねられた研究について、発表をしていただきました。

参加者の感想

学級を見ていくために個々を見ていき、実態や対策を考えていくことの重要性を感じました。

学校を上げて学級力調査を活用し、いじめ防止に取り組んでおられる点が素晴らしく感じました。特に職員研修の取り組みが印象的でした。

かわさき共生・共育プログラムによるエクササイズ(ワークショップ)は、子どもたちの居場所のある学級づくりに効果的だと感じました。



創造的・論理的思考を育む言語活動の充実をめざして
～子どもの発達段階に応じた効果的な読書活動の手立てを探る～

栗東市立教育研究所 研究員 穴 堀 春 香

栗東市の「ことばのチカラ・プロジェクト」がめざす、子どもたちの創造的・論理的思考を育むため、「読書を活用した言語活動の充実」について調査研究を進めています。1年次の今年度は、小学校児童の「読むこと」「書くこと」についての課題を調査し、5年生での読書を活用した実践を行いました。



就学前から中学校までの長いスパンを意識しての取り組みであること、わかりやすい具体的な手立てが提示され、本校でも活かすことができると感じました。

参加者の感想

少人数での話し合いや読書環境など子どもたちが学習に没頭しやすい環境づくりがされていて、参考になりました。

授業だけにとどまらず、子どもの資質・能力を育てるという視点で、学んだことを活かせる場の設定、環境整備が重要だと思いました。

成果と課題

研究により明らかになったこと

学習で身に付けた力を意識できるようにする

選書を充実させる

他者との共有の場を繰り返し設定

創造的・論理的思考を高める効果的な読書活動

コロナウイルスによる新型肺炎の流行やインフルエンザ対応など、校園におかれましては子どもたちの健康管理に日々ご尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

そんな中で先般開催いたしました第18回栗東市教育研究発表大会には、市内の保幼小中の先生方をはじめ、市内外から来賓の方々にも多数ご参加いただき、厚くお礼申し上げます。

今年度も14校園から16本の教育研究奨励論文を応募いただき、一年間を見据えて計画的に研究を進め、まとめていただきました。どの論文も先生方の情熱と意欲を感じさせてもらえるものでありました。来年度も多くの先生方に応募いただけますことを楽しみにしております。

最後になりましたが、一年間にわたり、当教育研究所の諸事業や運営へのご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

当研究所におきましても、先生方の授業改善や授業力アップにつながる手助けができるように努力してまいりますので、来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

副所長 西 條 義 信

